

「鳴門わかめ」 早生新品種の開発

- [研究機関名] 水産研究課（環境増養殖担当）
- [共同機関名] 北泊漁協，和田島漁協ほか計7漁協
- [研究期間] 平成25年度～26年度

■ 研究の背景・目的

- 近年，本県のワカメの生産量は，高水温化による養殖期間の短縮や漁期後半の色落ち等により，ピーク時の約4割の低水準に落ち込んでいます。
- そこで，「鳴門わかめ」ブランドの維持拡大に向け，高水温環境に適応した早生新品種を開発しました。

■ 研究の成果

- 従来の鳴門産早生ワカメに南方系の樺泊産天然ワカメを交配させた新品種を鳴門市及び小松島市沿岸の漁場で養殖した結果，葉重(可食部重量)は，従来品種の1.2～1.9倍となりました。
- 新品種の品質は従来品種と同等であり，多くの生産者，加工業者及び消費者から，「鳴門わかめ」として商品化が可能であると評価されました。
- 交配によってワカメの実用レベルの養殖品種の開発に成功したのは，全国で初の事例です。
- 潮の流れや波の影響などによってワカメの品質や生長が異なるため，漁場による適性を見極める必要があります。

■ 期待される効果，今後の展開

- 新品種は，水温が高くてもよく生長するため，漁期前半の収量増が期待できます。
- 新品種は，年末から年明けに出荷できる新物商品としての利用も見込まれ，現在，関東地方で新物市場を占有している三陸ワカメに対抗できる新商品として期待されます。
- 早生品種の開発によって，二期作養殖への展開・普及が見込まれ，既存漁場の有効活用が図られます。
- 新品種の普及にあたっては，均質な種苗が生産可能な「フリー配偶体による種苗生産技術」の導入が必須です。新品種とともに，この種苗生産技術の普及を進めます。

「鳴門わかめ」 早生新品種の開発

従来の早生品種より収量アップが望める実用レベルの早生新品種を開発

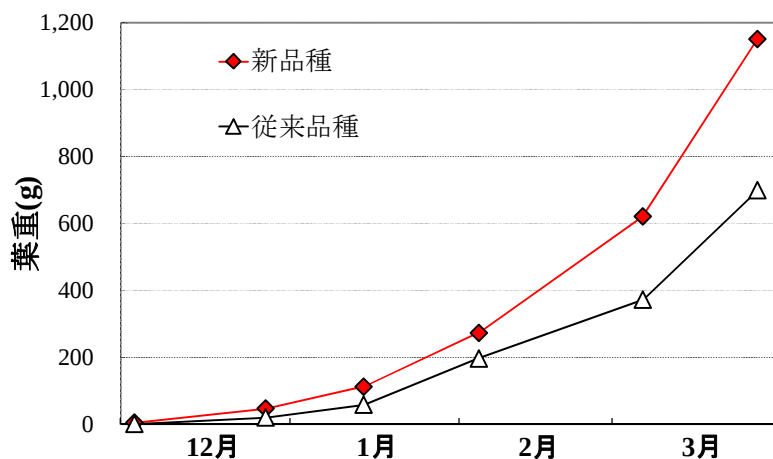
研究の背景・目的

- ・近年の本県のワカメの生産量は、高水温化による養殖期間の短縮や漁期後半の色落ち等により、ピーク時の約4割に減少している。
- ・「鳴門わかめ」ブランドの維持拡大に向け、高水温環境に適応した新品種を開発する。

研究成果の内容

- ・南方系椿泊産天然ワカメとの交配により、従来品種の1.2~1.9倍の葉重
- ・品質は従来品種の特性を受け継ぎ、実用可能な水準

＜養殖期間中のワカメの平均葉重（可食部重量）の推移＞



新品種のほうが
期間を通じて
従来品種より
葉重が大きかった！

導入メリット



- 収量: 従来品種の1.2~1.9倍
⇒ 特に1月~2月の漁期前半に収量を確保できる
- 品質: 従来品種と同等
⇒ 塩蔵ワカメとして商品化が可能

生産者の皆様へ

潮の流れや波の影響などによって、ワカメの品質や生長が異なるため、漁場による適性を見極める必要があります。

問合せ先 水産研究課 環境増養殖担当
電話 088-688-0555